

「けやき俳句の会」会報(第百八十九回)

平成三十一年四月

第百八十九回句会記録

★日時 四月三日

★場所 けやき学習室

(参加者二十名)

★真樹先生投句

- ② 振り返えるたび青春の桜散る
- ② もぐら盛る土の高さや桜散る
- ① 若人らの未来が集う桜東風

★真樹先生選句 (◎は特選)

- ◎⑤ 仏壇の仏頂面に一番茶 夢城
- ◎③ 戦後七十年老桜の咲く蒼穹に 青嵐
- ◎② 生涯の友と出会いし花の下 香魚
- ⑦ 春疾風竹林千の楽器なる 春草
- ③ 花吹雪亀の甲羅も池も染め 樹音
- ② 桜満開ガイダンス終え仲間らと 真弓
- ② 伸びのびし薬草園の花蘇芳 真弓
- ② 釣人の群れる岩咬む春潮 而今
- ② 花の雲見上げ溜息ひとり言 紀泉
- ② 池の端で鳩羽繕うのどけしや 一華
- ② 八十路越えても愚直に生きる花吹雪 要
- ② 草萌や八十路の独歩踏みしめて かな太
- ② 花の昼自転車こぐ児脚長し 春草
- ① 雛祭二人で老いておしろ酒 誠
- ① 蟻穴を出づや石垣の土ころげ 紀泉

★会員互選句

- ⑤ 花冷もどこ吹く風や亀並ぶ 真弓
- ④ 草芳し青年の脚長きこと 一華
- ④ やさしさの無限の広さ花筏 隼人
- ④ 奔放さゆえの儂さ雪柳 清明
- ③ カーナビや探すあの世の春の道 而今
- ③ 春告げるケキョと一鳴き幼な鳥 蕉哉
- ② 春の雲青年ひとりギター弾く 藍愛

- ② 学窓の樟の大樹の若緑 藍愛
- ② キャンパスにポスター多き四月かな 東洋
- ② やはらかき指切りげんまん黄水仙 東洋
- ② 露の臺ぱつと散らして味噌汁に 香魚
- ② 雪柳育て学童しなやかに 秋雲
- ② 新学期今朝の守衛も新顔で 一華
- ② 下萌や甘き実となる芽もあらん かな太
- ① そう鳴くは嬉しいことか春の鳥 史烙
- ① 春の鳥なにを思ふぞ胸ふくれ 史烙
- ① 野焼きして一步踏み出す古狸 夢城
- ① 散る花やラフな学徒の肩の上 夢城
- ① 春分は昼が長いと翁言ひ 蕉哉
- ① ぼんぼりに平成最後と夜桜も 蕉哉
- ① 新しき白衣に花の舞ひにけり 隼人
- ① 薬えの桜彩る幹太し 隼人
- ① 桜花充ちて若葉の緑冴え得たり 青嵐
- ① 昨日今日明日若人息吹花吹雪 紀泉
- ① 元号「令和」抑揚いかに花の雲 清明

【次回開催】

★日時・令和元年五月一日(水)

★場所・けやき学習室

★提出句・兼題「和」を含め三句